

## コース 26 いぶきやま あらしまだけ 伊吹山と荒島岳縦走

リーダー CL K/T SL M/T  
 実施日 平成20年 7月31日(木) ~ 8月 2日(土) 天候 快晴  
 参加者 20(男性 8 女性12)  
 グレード C~D 緩

### コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
7/31 新潟西港		16:30	秋葉区役所をマイクロバス発 14:20
8/1 敦賀港	5:10	5:16	途中、賤ヶ岳 SA で朝食、長浜 IC を降りる
伊吹山登山口	6:40	7:00	三の宮神社横からスキー場を上る
五合目	9:00	9:15	リフト最上部、ここからジグザグの急登
伊吹山々頂	11:25	13:00	西峰を經由し、一帯はシモツケイほか花に埋まる
山頂駐車場	13:45	14:00	(P) へ行くまでの間もお花畑が見事
宿泊所「扇屋」	16:30		高速道、関ヶ原 IC~福井 IC 経由
8/2 「扇屋」		6:30	6時前に食事をしてくれて良かった
中出コース登山口	6:55	7:25	目印の慈母観音水を確認するのに手間どった
小荒島岳	10:00	10:10	少し先、シャクナゲ平から急登
荒島岳山頂	11:55	12:50	展望と花の山頂だった
シャクナゲ平	13:45	13:55	ここからはブナの美林の下り
勝原登山口	15:45	16:07	九頭竜から全通の東海北陸道経由
有磯海 SA	19:05	19:40	30分、夕食休憩をとる
新津駅西口	22:15		下山時刻の遅れを取戻し、ほぼ予定時刻に到着

### 山行等概要（幹事のコメント）

- ・ マイクロバスごと船で行き、日本百名山の二座、伊吹山（1377m・滋賀県）と荒島岳（1523m・福井県）をそれぞれ一番下方の登山口から登って縦走するという設定だった。2日間とも、とにかく暑かった。
- ・ 伊吹は、全コースほとんど日陰はなく、荒島はシャクナゲ平からの登りと下りの全行程が急登下降の中、参加者全員終始元気よく(?)、どちら



の山とも、ほぼ時間予定どおり、登頂を果し、又、無事下山した。

- ・ 花一杯の伊吹、ロングランで手剛い荒島、それぞれに充実し、成就感を味わえた山行だった。

## 「伊吹山・荒島岳の2座の百名山を訪ねて」

(834) Y/S

今回の山行はグレードC～D。私には無理かなと思ったのですが、友達の励ましもあり、この機会を逃せば行くチャンスはないのではと思い切ったの参加でした。

7月31日

午後4時半新日本海フェリーで新潟を出港。荷をほどくと皆思い思いの飲み物を持ち込んで男性の船室にてミーティング開始。リーダーから明日からの山のコースの説明や注意事項の話があった。また、来年の山行予定の北海道の山旅の話なども出て、山談義に大いに盛り上がり明日からの山登りが楽しみになる。その後レストラン又は自前の夕食をとり、ほとんどの人が入浴して早めに眠りについた。

8月1日（伊吹山）

5時半敦賀港に到着。バスで賤ヶ岳SAまで行き朝食。その後三宮神社の登山口に到着。7時登山開始。登り始めていくらしめないのに、皆が汗だくになる。私はスキー場を登るのはいつもキツイなあって思った。ま〜だ三合目。ペットボトルの氷が解けていなかったで、冷たい水が美味しい。梅干も食べておこう。やっとリフトの最高点の5合目に到着。そこには自動販売機があり、冷たい飲み物に喉を潤した人もいる。私は持ってきた氷水がまだあったので、荷物が重くなるのを恐れ、買わないことにする。

ここを過ぎたあたりから、メタカラコウ・シシウド・ルリトラノオ・カワラナデシコ等に出会い始める。ジグザグ上りになったのか、花のせいか皆足も軽くなったようだ。

11時頃、頂上より西のお花畑に到着。山一面のシモツケソウの群生の濃いピンクにシシウドの白・クガイソウの紫のコントラストが美しい。他にハクサンフウロウ。ウツボグサ・イブキジャコウソウ等種類も豊富である。きっと天国とはこんなところかもしれない？

皆が感激して写真撮影に夢中である。

そこから頂上まで思い思いに歩く。頂上はお土産屋が数軒あり、食事も取れるようになっていて賑やかである。祠の前やお花畑で記念撮影。12時50分頃から一時間くらいかけて伊吹山駐車場に向けて歩き始める。見渡す限りシモツケソウのピンクで山が覆われている。少しそのピンクが途切れている箇所は国の許可を受けていないので、よもぎ等の刈り込みがまだされていないためだと伊吹山の自然を守る人が教えてくれる。これがシュロソウ・トモエソウとサプリーダーが教えてくれる。初めて見た花だ。空の青とポッカリ浮かぶ白い雲とピンクのお花畑に別れをおしみつつ駐車場に到着。



途中明日の昼食をコンビニで調達後、2時間余りで大野市の宿「扇屋」に着く。リーダーが時

間の無駄を省くため事前に決めていた部屋割りが宿の手違いで変更になる。お詫びの言葉が無い仲居さんの対応に驚かされる。

8月2日（荒島岳）

中出コース登山口に向かうが登山口がはっきりせず、「勝原コースの往復」に変更の話がリーダーからでる。荒島岳のコース説明の冊子に急登の苦手な人は中出コースを往復する方が良いだろうと書いてあったことを思い出し、不安になった。バスが戻り始めてすぐリーダーが目標の慈水観音を見つけ、予定通り中出コースから登ることになった。

7時20分頃から林道を30分位歩いていよいよ登山開始。昨日と同じように暑い。小休止をはさみながら小荒島岳に10時頃に着く。これから登る荒島岳が前方にそびえている。皆が山をバックに写真を撮る。やがてシャクナゲ平を経由して、頂上に向かうのだが、そこは段差の大きい階段や足が届かないようなところを木につかまりながら登る。急登が苦手な私は班の先頭に出してもらおう。前の班の人が優しく自分の班の中に入れてくれる。やっと登り終えた所が頂上かと思ったら、まだまだ登りが続く。やはり百名山は簡単には頂上に着かない。12時頃に山頂到着。思わずリーダーに握手を求めた。皆も感激しているようだ。リーダーとの握手が続く。花も咲いていたが昨日の今日なので、登頂出来た感激の方が大きい。50分下山開始。シャクナゲ平までは登りと同じルートだ。よくもこんな急登を登ったものだと思いつつ自分で感心しながら注意しながら下る。その後も石のごろごろした急降下の道で歩きにくい。ようやくスキー場リフト上方の終点あたりに到着。そこでしばし休憩。合計1850ml持ってきた最後の水を飲む。体力のある人が今まで持ち続けていたグレープフルーツの一房が美味しかったこと。サア後はスキー場を下るだけだとリーダーが皆に声をかける。ほっとするもこれがまた歩きにくい。疲れているせいか何度も足をとられそうになる。3時間あまりの下りが長く感じられる。3時40分過ぎに全員怪我も無く駐車場に到着。運転手さんが車の冷房をかけて迎えてくれた。帰りの高速道路は半月前に繋がったばかりの東海北陸自動車道を走り小矢部JCTを経て、有磯海SAで夕食をとり、10時過ぎ新津に到着。長岡の花火の渋滞にも巻き込まれずほぼ予定時刻であった。



今回はお天気にも恵まれ、全国の山々を登っているリーダーがあれほどのシモツケソウの群生は始めて見たと言うくらい花の盛りの伊吹山に登ることが出来たし、荒島岳では厳しかったからこそ山頂に立つ達成感も味わえた充実した山行であったと思います。

私にとっては特に心に残る山行になるに違いありません。

本当に参加して良かったと思います。

リーダー・サブリーダー・同行の皆さんありがとうございました。